

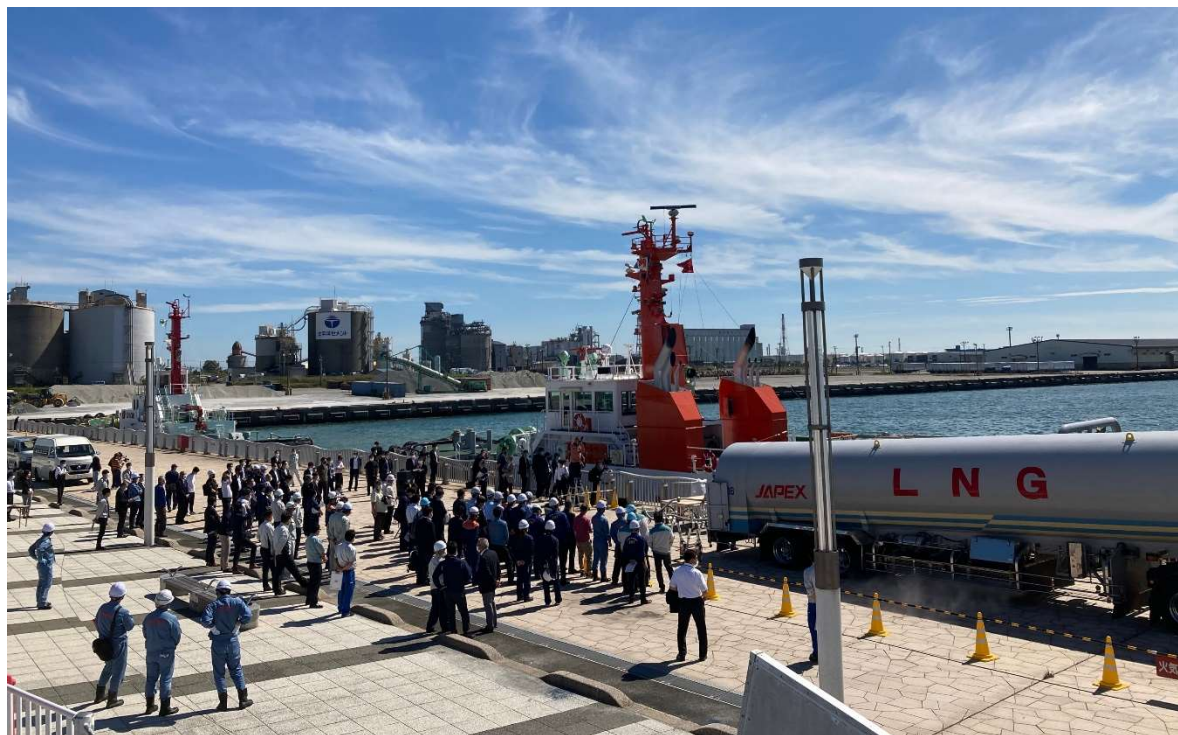
2022年9月8日

## LNG 燃料タグボート「いしん」が苫小牧港 LNG バンカリングトライアルに協力 -LNG バンカリング拠点整備とLNG 燃料普及に貢献-

株式会社商船三井（社長：橋本剛、本社：東京都港区）は、本日、苫小牧港管理組合（管理者 苫小牧市長：岩倉博文、住所：北海道苫小牧市）と石油資源開発株式会社（社長：藤田昌宏、本社：東京都千代田区）が北海道苫小牧港において実施した LNG バンカリングトライアルに協力しました。同トライアルは、商船三井が保有し、商船三井グループの日本栄船株式会社（社長：西尾哲郎、本社：神戸市中央区）が運航する LNG 燃料タグボート「いしん」を起用して LNG バンカリングを行ったものです。

本トライアル実施にあたり、MOL マリン&エンジニアリング株式会社（社長：中島孝、本社：東京都港区）が海事コンサルティングに関する協力を行いました。

### <バンカリングトライアル>



< 記念セレモニー >



左から、苫小牧港管理組合 平澤専任副管理者、MOL マリン&エンジニアリング(株) 中島社長、日本栄船(株) 西尾社長、(株)商船三井 向井執行役員、苫小牧港管理組合 管理者 岩倉市長、石油資源開発(株) 菅専務執行役員、石油資源開発(株) 松本北海道事業所長、苫小牧港管理組合議会 遠藤議長

なお、「いしん」は現在、大阪堺泉北港を中心に大型貨物船等のエスコート業や入出港作業を担っていますが、同船の LNG バンカリングトライアルは神戸、名古屋に次ぐ 3 例目となります。今回の LNG 燃料は、大阪堺泉北港での供給と同様にタンクローリーから Truck to Ship 方式<sup>(註)</sup>にて供給を受けました。

商船三井グループは、2050 年までにネットゼロ・エミッションを達成することを目指し、2021 年 6 月に「[商船三井グループ 環境ビジョン 2.1](#)」に沿って脱炭素・低炭素化実現に向けた「クリーン代替燃料の導入」戦略を推進しています。

LNG 燃料は従来の燃料油に比べ二酸化炭素では約 25%の GHG 排出削減効果があり、「今すぐ実現可能な GHG 排出削減の取り組み」として、LNG 燃料船の導入を進めています。今後もグループ一丸となり低・脱炭素化社会の実現に貢献していきます。

(註) Truck to Ship 方式

LNG ローターから係留中の LNG 燃料船に対して LNG 燃料を供給する方式です。

<商船三井グループが設定した 5 つの [サステナビリティ課題](#)>

商船三井グループでは、事業を通じて優先的に取り組むべき社会課題として特定した「サステナビリティ課題」への対応を推進することで、持続可能な社会の実現に貢献します。本件は、5 つのサステナビリティ課題の中でも特に「Environment -海洋・地球環境の保全-」と「Innovation -海の技術を進化させるイノベーション-」にあたる取り組みです。



海事コンサルティングに関するお問い合わせ先:

MOL マリン&エンジニアリング株式会社

海洋技術事業部

TEL 03-3587-6011 / E-mail: MOLMEC-admin@molgroup.com